



平成 28 年 7 月 26 日 (火) 視察先 岩手県. 洋野町役場

朝 7 時、修善寺駅を出発し、伊豆箱根鉄道. 東海道新幹線. 東北新幹線・八戸線.
を乗り継ぎ洋野町役場を目指した。到着したのは午後 1 時頃となった。

洋野町は、岩手県九戸郡にあり、太平洋沿岸に面し、面積約 300 平方キロ、人口 17,604 人の比較的小さな町であった。

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、東北地方、太平洋沿岸に甚大な被害をもたらした。大津波による福島第一原子力発電所の事故は、大量の放射性物質をまき散らし、一帯に大きな被害をもたらした。現在も多くの人々が避難生活を強いられている。

洋野町では、このようなことから、これまでの原子力に頼る考えが大きく変わり、安定した電力供給、環境に配慮したエネルギーとして、再生可能エネルギー活用へと大きく舵を切り、平成 24 年 3 月に洋野町総合計画後期基本計画を策定し、再生可能エネルギーの導入促進を、第一目標とした。それは基本計画とし証明されている。

他の被害においては、民家や道路、水産加工所、船舶等は大きな被害を受けたが、奇跡的に死亡者、行方不明者が零だったそうである。また被災時には、停電やガソリン不足などにより、それを求める住民で道路は大渋滞をしたそうである。町民の生活には経験したことのない出来事で精神的にも大きな被害となったそうである。

消防団活動においては、明治 29 年、昭和 8 年の津波の教訓をいかし、火災だけでなく津波に対しても十分な訓練をし、水門の開け閉めにも分担作業とし、統制がとれているとの事である。消防団も 600 余名(若者から年配者までが加入)が団員となっており、17,600 人の町民に比べると加入率が高く、町民の火災や災害に対する危機意識の高さが伺える。

平成 28 年 7 月 27 日 (水) 視察先 久慈市役所、一戸役場

本日の視察は、午前にも久慈市役所での議会報告会について、午後より一戸役場のデマンド交通についての視察である。

最初の久慈市は、岩手県の北東部にあり、太平洋に面している。中心部は少し山寄りの方に存在する。面積は、約 623 平方キロ、人口 35,300 人で伊豆市と比較すると面積は倍近くあり、人口は 3,000 人ほど多い。

じえじえじえ条例とは、冒頭の附則の文章については標準語を使わず地域の方言を多用し読む人に強い印象を与える文面となっている。

議会報告会とは別に、市民と議会が協同する場、「かだつて会議」を設置した事、ICT の積極活用、議長だけではなく、委員長の所信表明の機会を設けた事、議会同士(議会事務局を含めた)の積極的交流など、特徴のある条例となって

いるようである。

議会基本条例は、全国の市議会等でこぞって策定を急いでいるが、久慈市での説明、資料、を見ると二元代表の基本をしっかりと把握し、市側の役目、議会の役目を分別し、明記し、実行しているのが分かる。

話はそれるが視察の少し前に東京での全国市議会勉強会があった。講演会が終わり、聴講のある議員が、市議会議員は市長派とそうでない派とがあるが、それに対しどう対応したかとパネリストの磯子元市長に質問した。元市長は議案に対し賛成派と反対派はあるが二元代表の制度の中ではそんな事はない、提案に対し全部賛成の議員はいませんでした。と当然のごとく答えた。こんな事を加味すると久慈市市議会が基本条例の厳守と実践しているに対し全国から評価されるのは当然のことである。

一戸役場のデマンド交通について

午後からの一戸は、岩手県の北部の内陸部にあり、中心部は山間部に位置する。面積は、約 300 平方キロ、人口 12,600 人で面積は伊豆市より少し少ない。人口は 1/2.5 ほどである。少し遅めの昼食を一戸役場で頂き、デマンド交通についての会議に入った。

経緯については、一戸町も、全国的な人口減少の渦中にあり、バスの利用者も減り続け、減便により高齢者などの足に影響が出てきた。対応策として町民の足の確保と町内の活性化を目的とし、平成 20 年にデマンド型交通を導入することとなった。組織については、町内のタクシー事業者 3 社、バス事業者 1 社、一戸町、計 5 社が共同出資して設立した。

利用までの流れは、利用登録のために住所、氏名、電話番号、書いて申請書を出し、登録すると利用者の位置を予約センターで把握でき、予約を受け付ける事ができる。

乗車時間の 1 時間前までに予約し、料金は、乗車チケットで支払う仕組みとなっている。

詳細料金は、エリアを分け、同エリア内の移動は 300 円、エリアを 1 つ超えるごとに 200 円増え最長でも片道 700 円で乗車出来ることになっている。

小学生以下は半額、未就学児は保護者 1 人につき 1 人まで無料、1 歳未満のお子様は無料。

設定運賃も格安となっているため、町からの補助金の負担が、今後の課題と感じた。

平成 28 年 7 月 28 日 (木) 視察先 盛岡市役所

盛岡ブランド推進事業

本日は視察最終日である。盛岡ブランド推進事業についての視察である。

盛岡市は、岩手県の県庁所在地であり、東北新幹線盛岡駅があり、街中に北上

川が流れ、鮭が遡上し、アユ釣りもビルの谷間で楽しめるそうである。

位置は内陸部に有り、面積は、約 886 平方キロ、伊豆市の 2.5 倍、人口 297,000 人で伊豆市の 9 倍以上の大きな市である。

推進事業は、市民が盛岡に対する商業、観光、芸術文化、歴史、景観などの分野に於いて、愛着、魅力度を高め、本事業を実施することにより、盛岡ブランドを市内外へ発信することを目的としている。効果として、1. 市外における盛岡の魅力度の向上。2. 盛岡というまちに愛着を持つ市民の増加。3. 来訪者（観光客、修学旅行生等）の増加。の三つを掲げている。

説明の中で、市民一人々から盛岡市を理解し、愛し、盛岡市の持っている、自然や歴史、伝統・文化、歴史的建造物や古い街並みなどの風景、特産品や芸術文化、人情などを巧みに利用し、ブランド化し、切れ目なく盛岡ブランドを推進し、市の発展につなげている事業と感じた。